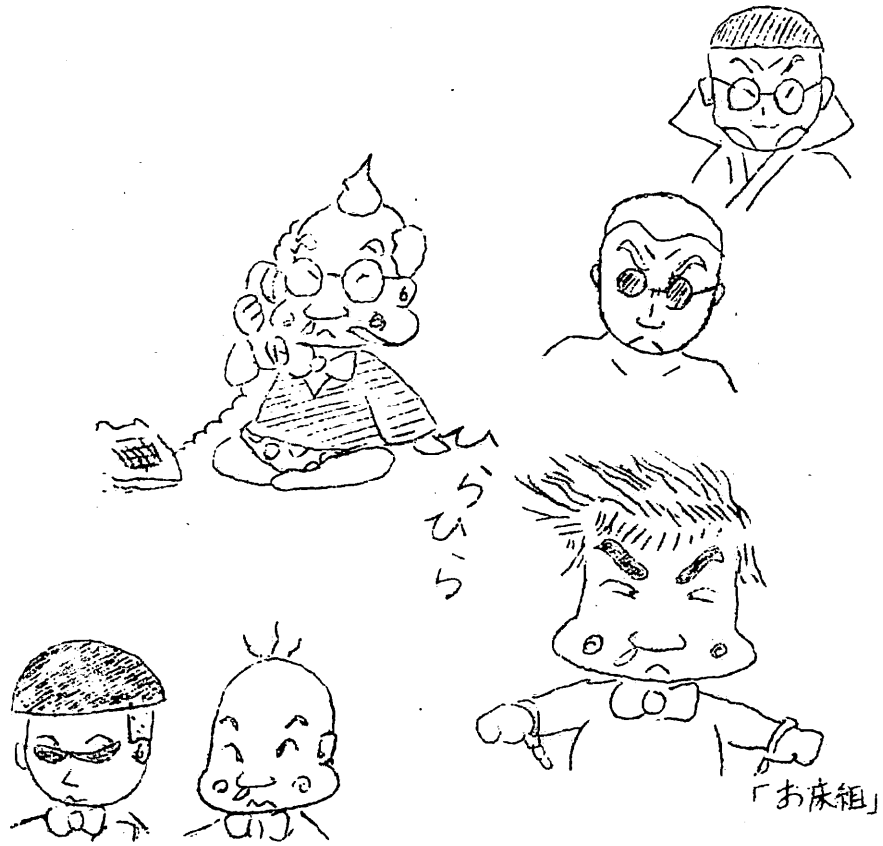
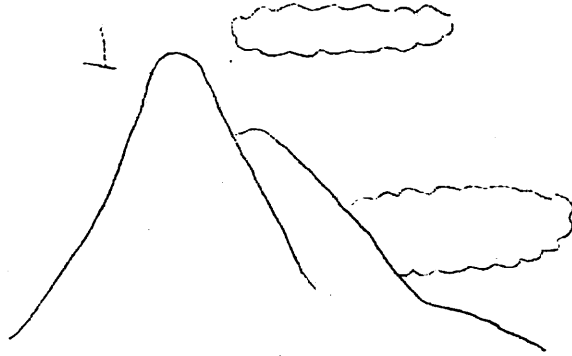


冬山合宿報告書

信州大学山岳会 上田長野山岳部



4-7 リーダーの言葉

夏の熊の岩で生まれたこのハツタリ(みた言極き、事前のトレーニングが力を
奏したのか)無事すべての予定を消化して終えることができた。会の合宿として
は初めての冬期登攀であり好天にめぐまれたとはいえ、大きな成果であったと思
う。この成果を生かしていくかは各個人の課題あり、今後の山行の取りく
み方に期待している。春山が楽しめた!

しかし、合宿の成果は成果として、近ごろ我々は容易にゲームに流されて、自
分たちの山登りを忘れてしまっているのではないかと思えてしかたがない。い
や、むしろ我々には自分たちの山登山存というものは、最初からなかったの
がもしれない。新人のころ信大山岳会は冬の3000m級の山に登ることを目的にし
ていると教えられた。しかし、冬の3000m級の山に登るということは大変に
多くの要素をふくみ、どうもところのない言葉である。我々の会はこれまではほ
んど無目的だったのがもしれない。そして無目的に我々がゲームに流された結果
として、今回の合宿があったのではないだろうか。その是非はともかくとして
あるが…。大町の宿の宿帳や会報にはまだ幕岩が限られた山岳会の人達に
よってのみ登られていたころの生々しい記録がづらわれている。その下ホド
ある山嶺登高会やG.D.Cの人たちの地道な努力と苦闘のあとを記述し、我々の
活動がうす。べうなものに思えてしかたがない。このへんできう一度、自分たち
の山登りというものを考えてみてはどうだろうか

中嶋 岳志

行動概要(登攀)

	飯温泉	嵐沢出合	金野の滝上	大野の滝	大バンド	小林テラス	終点
1		→					
2			→	→			
3			→	←			
4					←		
5						→	

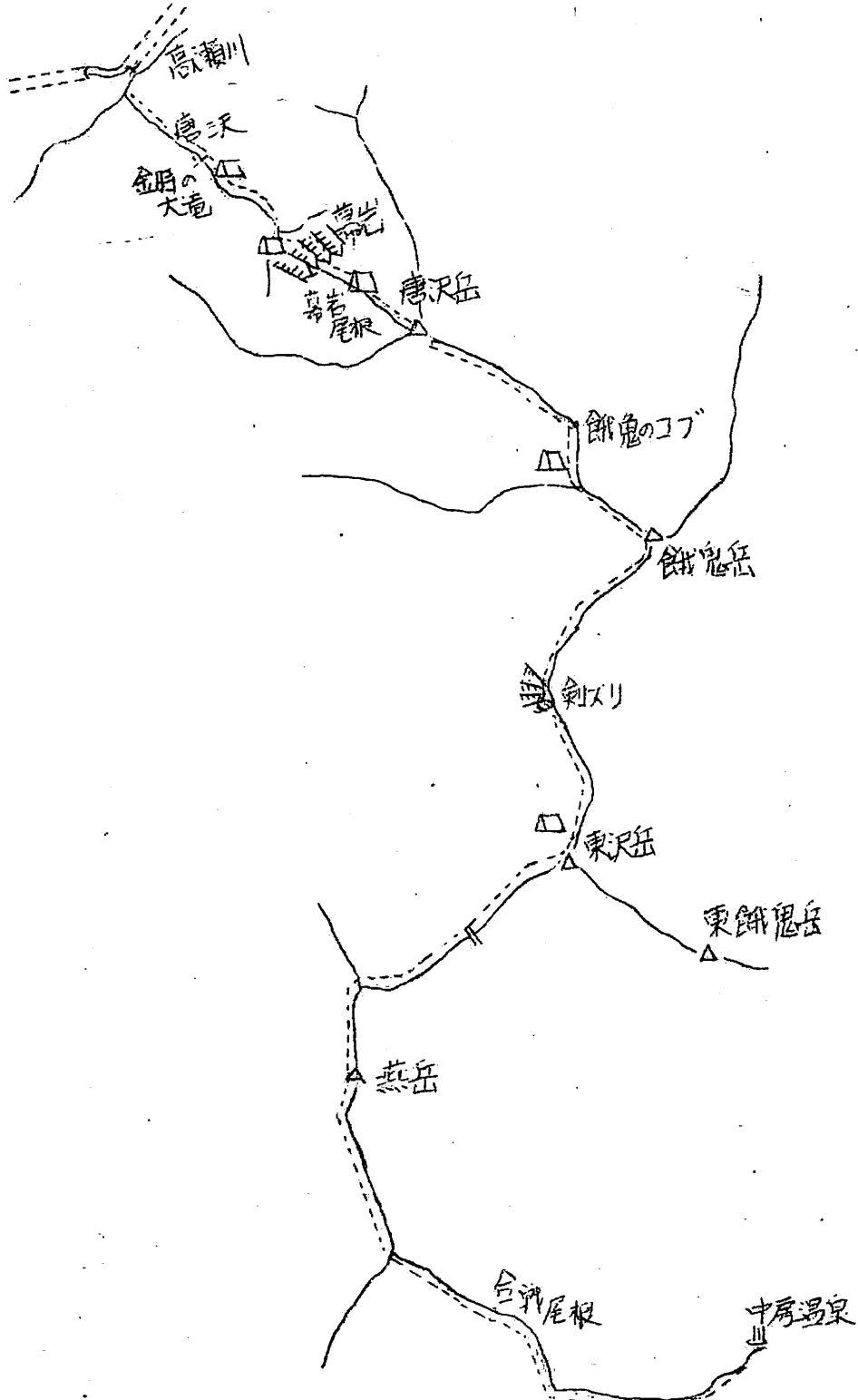
荷上げ

今回の山行は、全員が同じルートをしがき岳まで縦走する荷物をきって縦走登るとのことより、岩壁部分はすべてfixしそれをユマーリングで登るという方法をとった。当初の計画では、ほぼ3回に分けて荷上げするつもりであったが、以外に荷が軽く、ルート全体の傾斜がゆるいこともあって、2回で済んでしまった。荷物は、大バンドの上のハンクをのぞくすべてのピッチで背負って登った。ハンクのピッチでは、ガイルを2本fixし、つり上げるようにしたが、これは大成功であった。なお我々の登ったカキリでは、1人当り20kg程度が一回きって登れる限度だった。

ユマーリング

合宿に先だって物見岩で数回にわたってユマーリングのトレーニングを行い、直上、斜上、トラバース、支点でのかけがえ、アップサイレントについて練習をつんで、今回の山行にのぞんだ、その成果は十分に現われたようだ。しかし荷物を背負って10Pものユマーリングをすることは予想以上にきびしかった。ユマーリングの技術は数多くの本に書かれてはいるが、実際にサレシテで練習し自分なりのユリをつかんでおかないと本番では役に立たないだろう。特にトラバース、斜上などはむずかしい。またワイヤーブラシはユマーリングについて雪や氷をおとすのに必ず用意しなくてはならない。

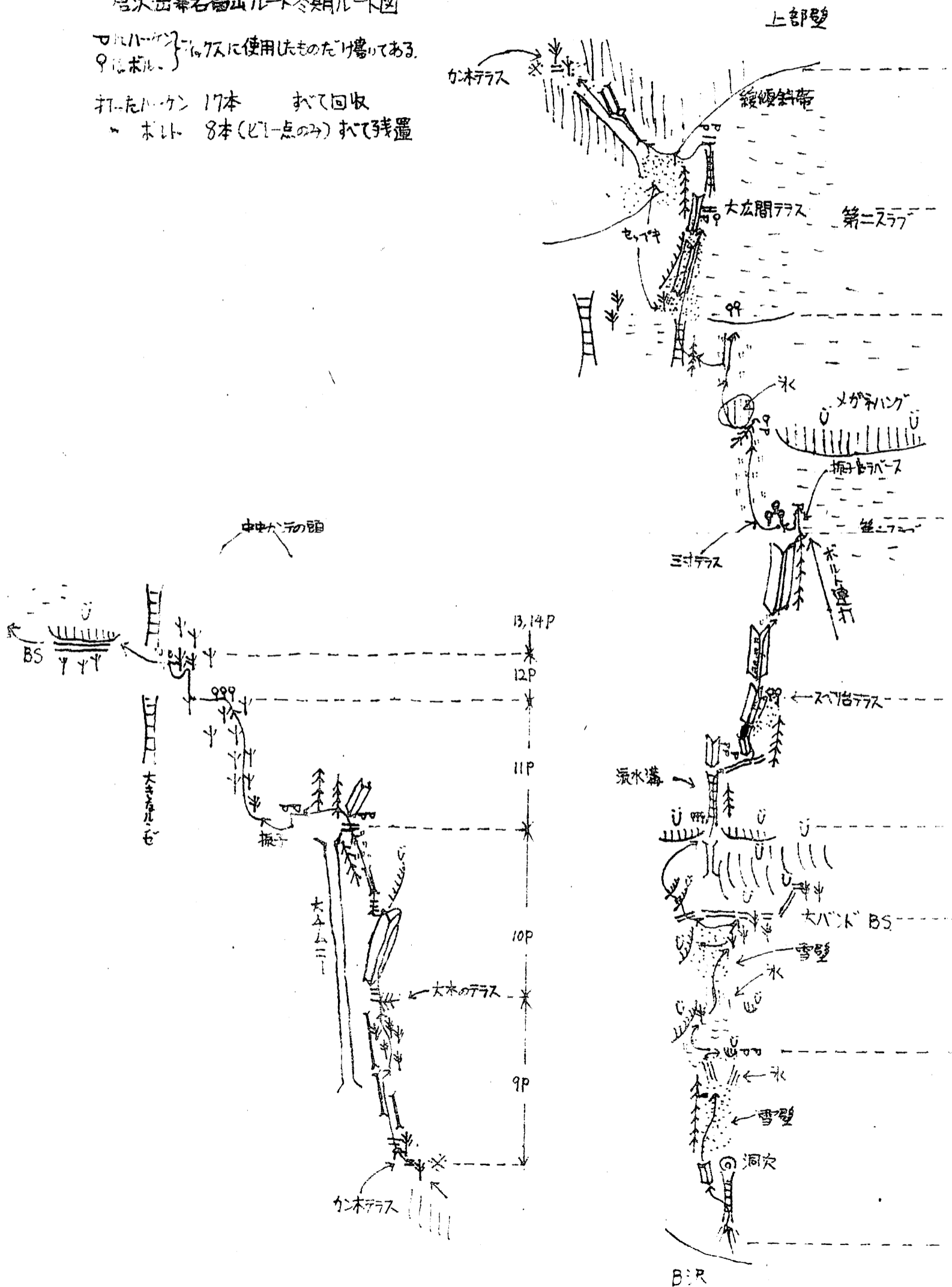
行動概念図



唐沢岳幕岩島山ルート冬期ルート図

ロープハッチ } 7本に使用したものをたけ置してある。
9本はボルト

打たれたハッチ 17本 おてて回収
ボルト 8本 (7点のみ) おてて残置



行動記録

12月19日 ①→② 松本^{5:30} — 高温泉^{7:00} — 唐沢出合^{9:00} — 全時 / 滝上^{11:00}

— 出合までデポ回収

予定より1日おくれでの入山である。空圖が赤くれて入山するため、
 6人で2週間分の装備とエッセイを5人で持つ事になり、アタ、ワザフ
 では、はいいり切らなり者もいる。当初の予定では高温泉からダブルボカ
 であつたのだが、みんながんばり唐沢出合まで1回で荷上げが終了する
 唐沢出合に約半分の荷をデポしてから唐沢を登り、全時の大滝上流の
 台地にテントを設営してから出合のデポを回収する。沢は5cmほどの
 新雪が積っていたが歩きやすかつた。

12月20日 ②→時① TS^{8:30} — 大町の宿^{9:00} } デポ回収 (竹内、山田、吉野)
 ルート工作 (中嶋、山本)

TSより登攀具中心に大町の宿へ荷上げとする。宿への最後の登りが
 しんどい! 宿でルート工作队とデポ回収隊に分かれる。

・デポ回収隊 宿 — デポ回収 — 宿 11:00

しばらく休んでからひき返し、がんばってもう1回で荷上げ終了

・ルート工作队 宿^{9:00} — 取付^{9:15} — 大バンド^{12:00} — 流水溝入口^{13:45} — バンドー

— 取付^{16:05} — 宿^{16:20}

デポ回収隊を送り出してから、行動食を少し食べて出発する。半分凍、

たB沢を登り、ルンゼ状の所から中嶋トップで登りはじめる。

1P目 ルンゼを登り、左へ出てから草付を直上。さらに雪壁から氷壁
 を登り雪のバンドに出る。ハーケン二本打ってビリー 45m

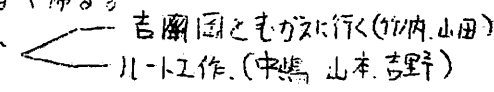
2P目 トップ山本に替わり、雪壁を左へトラバースしてから草付を
 直上、ハンク下の木に憑る。右にトラバースし、滝の中心を人工で登
 り氷雪壁を登り、大バンドの木まで 55m。5m上の大木にうつってから

3P目 雪壁から、かぶりぎみのバンドを左へトラバースし、1段登る。

てから、アイゼンをはずして人工で流水溝入口のボルトテラスまで30m
この上2Pが核心部である。

4P目 うわさに高い、物の本にまるとV級と言われた流水溝である。
取付でのジャンケンに敗れた山本氏でのピッチはトッパで登らざるま
と計算していたらしいが、大バンドまで2Pで登ってしまったので、こ
のピッチをトッパで行くことになった。入口がかなり悪く、ハーケン1本
打って上に出る。後は氷をくずして残置ハーケンを掘り出す。7〜8m
でハーケンがなくなり、岩角にスリングをひっかけたの、おまな、かし
い人工と、いやなフリーで凹角をめぐる。途中に夏にはなかつたボルト
が打ってあり、精神的に楽であった。始めてからは氷雪のついたスラブ
を登るが、ピッチ一点が判然としないので、ハーケンを本打って一応ピッチ
を切る。今日はここまでとして11mのメインロープを固定し、ランニ
ングピッチを回収しながらアップサイレンして中嶋の待ってボルトテラス
にもどる。15:40

あらかじめ固定しておいたスラブにすがって2Pアップサイレンし、
ハンク下の木から新たに15mフックスして、1P目のスラブと下降し
取付にもどる。B沢から大町の宿へ帰る。

12月21日 ○ 宿_{17:20} — 大バンド  吉園ともがえに行く(中嶋, 山田)
ルート工作。(中嶋, 山本, 吉野)

。荷上げ隊 大バンドまで荷上げをしてから、下降し、出発まで吉園を
もがえに行く。宿へついでから、もう一回荷上げをする。

。ルート工作隊 大バンド_{8:30} — 大広間テラス_{15:25} — カン本テラス_{16:10} — 宿_{17:00}
大バンドでアンガイレンしてからフィックスロープを登って流水溝入口に
達し、ここよりスタカトにする。トッパの中嶋がフィックスを昨日の
最高到達点まで登り、ダブルロープにしてさらに登りはじめる。

1P目(通算4P目) 氷の凹角より雪壁を直上、ボルトテラスより40m
で300mほどの雪の下からボルト2本の滑り台テラスと掘り出す。

2P目 引き続いてトップ中嶋で登る。雪壁から左へうつって凹角の中
の草付をダブルアックスで登り20mでけんちよな凹角の入口に達する。
ここまではハーケンが打てず小さなグンシュ1本が中間支点である。
凹角はコーナーに雪がたまっていてとても悪そうだ。コーナーのクラク
トにナッツをおし込んでランニングピレーとして1cmほどのくりこみの
ハーケンに乗る。こまかいフリーと雪の中からハーケンを掘り出しての
登攀が続き、ハーケン3本打ち加えて凹角をぬけ出して、35mで右のカ
ンテに打たれたボルトに達する。このボルトは別のルートのものである。
人工で直上し、振子でボルト2本の三寸テラスに飛ぶ。40m

3P目 トップ山本にかかり、左へ嫌なトラバース3mをした後、凍った
急な草付壁を直上する。つまった所から左へ人工でトラバースするのだ
が、氷が張りついているので、ハーケン類がどこにあるのが皆目判らない。
アイススクリーもきかないので、しかたなく恐いフリーでトラバース
思い切って登り出したらアブミが足にからみつき、あやうく落ちる所だ
った。後はスラブから凍った急な草付壁をダブルアックスで直上し、小
洞穴にてピレーする。リスがないのでたよりないグンシュでピレーし、
中嶋を上げる。ボルトを打って吾野にコールする。

4P目 小洞穴から上は完全なスラブでアイゼンをつけていたのでは登
れそうにない。夏は快適そのもののピッチ4なのだが今回は左側の雪のつ
いた凹角(ルンゼ)を登ることにする。5m下降してから小さなカンテ
を回りこんで、氷のついたフェースを5m登り草付に達する。そこから
雪のついた凹角状スラブをダブルアックスで直上し大玄関テラスにつく

ハーケン1本打ち加えて山本を上げる。

5P目 雪のルンゼを登り、左の小カンテを越し、5mのトラバースから一段上の凹角へ入る。かなり悪いがなんとかフリーで越す。後は雪壁を登ってカンテラスに出る。中嶋を上げ、すぐ下降にうつる。

アイクスをアップガイレンし、大町の宿へ帰る。通算4P目のスック、スザイルが大きく傷ついたので、明日取り替えることにする。

12月22日 ①→②→③

宿_{6:30} — 大バンド_{8:45}

ルート工作隊 (中嶋、竹ノ内、山田)

荷上げ隊 (山本、吉野、吉岡)

○荷上げ隊 大バンド — カンテラス_{13:00} — 大バンド_{14:45}

全員で大バンドまで荷上げをした後、ルート工作隊と荷上げ隊にわか水カンテラスまでの荷上げを行なう。大バンド上のハングは2本のザイルを固定し、空身でユマーリングしてからザックをフリ上げる。

○ルート工作隊 大バンド — カンテラス_{16:45} — 夏の終了点_{16:20} — 大バンド_{17:15}

山田、中嶋、竹ノ内の順にカンテラスへ向ってユマーリングをする。

ハングに荷上げ用ザイルを固定し、その上のピッチとカンテラス下のピッチのザイルを張り替えてカンテラスにつく。竹ノ内がまだ登って来ないが中嶋、山田でルート工作をする。

1P目 (通算9P目) トップ中嶋 本を利用して一段上のテラスにうつってから、クラックにナッツをきかせて5mほど直上し、左のハーケン連打にうつる。20mでカンテラスにはいる。さらに10m登ってカンテラス上端の横向きにはえた大木のテラスでビレ-

竹ノ内がカンテラスにつくのをしばらく待ってから山田を上げる。

2P目 トップ中嶋、フリーで一段上ってから、ボルト連打のフェースを登りカンテラスを左に出て小レッジからせまい4ムニーにはいる。フリーで

は不可能と判断し、ワロモリのハーケンを打ち込む、こころよい音を発してうまく打てたが、アブミをかけたようにして良く見るとアゴにビビがはいつている。細いシュリングをタイオフして体重をかけるが、アゴが下を向いてしまい、しかたなく別のハーケンを打つ。残置ハーケン2本と、もう1本アイスハーケンを打ち加えて登る。4ムニー上部は急な草付で、アイスハーケンからではどうしてもフリーにうつれず岩角にシュリングを掛けてアブミに乗り、やっとフリーにうつることができた。草付は雪を落としてじっくり登り30mでレッジに出てビレー

3P目 トップ中嶋、あと15mで岩は終りだとなかさくくって登りはじめ。ところが以外に悪く、残置ハーケンにアブミを掛けて立ち、フリーで左へトラバースする。ここは小カンテが2つほどあり、カンテとカンテの間の草付にピッケルとアイスハンマーを打ち込んでのフリーである。思い切ってカンテを回りにんだらアイスハンマーをのこしてしまい、あてる！行きづま、た所で振りとして左下のレッジにうつり、ブッシュ帯を左上する。30mでザイルが動かなくなり、ボルト2本打って山田を上げる。

連続3Pをトップで登った中嶋ついにかつき、山田に登、てもらうことにする。

4P目(通算12P目) トップ山田、岩湿りの急斜面を左へ10mトラバースしてブッシュを直上、途中で登り過ぎ、下降して左へトラバースしてスラッグ帯上部へ、雪面の所で終了。上部にルンゼ有り、9mmφメインザイルを固定して下降。

今日の3P目に11mmφメインザイルを固定し、フィクスをたよりに下降する。途中からベッドランプをつけての下降となる。

全員大バンドに集結し、ゆっくり夕食とってから、山本、山田と、中嶋、竹ノ内、吉野、吉岡の2組に分かれてビバーク。大バンドは存人とか体をのばして寝られるスペースがある。

12月25日 ⊗ 大バンド7:00 夏の終了点 — 1P登、カテラス17:30
全員で終了点へ向って荷上げをする。吉野、竹ノ内、山本で先行、山田、吉岡が続き中嶋が最後からフィックス回収を行なう。トップとラストでは2時間ほど登りはじめる時間に差ができる。カテラスにゆ々の荷をデポし終了点へ向う。夏の終了点より先もフィックスが必要なため、吉野がカテラスまで引き返し、ザイルを持って終了点まで登って山本、吉野で終了点の先2Pのフィックスを行なう。竹ノ内、山田、吉岡は、夏の終了点からカテラスにもどってデポを荷上げする。中嶋はカテラスまでのフィックスザイルと、ハーケン、シュリング等を回収してから終了点へ登る。今日はみんながんばり、終了点の先1Pのカテラスまでの荷上げをすべて完了し、フィックスザイルも2Pまで回収が完了した。ビバーク地のテラスはテントは張れないが全員がまとまって寝ることができる。ハーケンを打ち、ツェルトをつるしてビバークする。もう1Pフィックスを登れば、歩いて歩ける所に出るので、ここで岩壁終了としてエッセンの食いつぶしとする。夜になって雪はやんだが、左のルンゼからの今更雪崩が風にまじり、みんな真白になってのビバークだった。

12月24日 ④ BP <アックス回収 山本吉雄子、BP
(7:30) <上部偵察 中、山田、竹> (7:30)

——幕岩尾根支稜台流点(3:00 PM)

ワイルドにふき込む雪をシムラフが真直にたつたヒバークもふきり行動に移る。
上部スラアの構子が判らぬので3人が偵察、2人がアックス回収に下降する。
偵察2人は上部の尾根に2本のアックスをして下り、アックス回収は
3人が頑張りすばやく終る。全員合流し荷物を全部降して尾根を登る。

この尾根は幕岩尾根左稜とモウラバキ尾根である。やせ尾根とアッシュでけこう
系は、3本のアックスを使用する。岩壁での滑落を恐れて早目にテントを張る
大室に付いた(けこう)を登り上りエツヤを念に下り、(おまた大室に付いた)ト
登り上りカツリを登り頂を取る。(中略記)

12月25日 ○ TS —唐沢岳— カフとそのコブとのコル
(7:30) (12:30) (15:20)

今日は朝飯まで予定であったが、昨夜のクリスマスイブのお祭り騒ぎで有頂点
になったため出発が大部おくれた。マカヒニボルト等というこの
世の物とは異なる物を念で出発。袋のせいかな荷物の重さは昨日とすばやく
変わっていた。雪が晴れでやせた幕岩尾根は120°の展望である。
一年の苦労も必死でクワア来る。唐沢岳のピークでは解けたホロホロの岩
がムキムキ出てくる。例の燕の岩である。無風状態の唐沢岳で完全静寂。
後は前々(けこう)の(けこう)を登りカフに向ふ。途中(けこう)内と山田がスリッパ
をたふしにクママアアコトなきを得る(江意しよう?)カフのコブはトラバース
して通過する。唇がテテアマリとでもかききりけそうに(けこう)で手前のコル
にテントを張った。雪は少なかつたが新雪の降る重なり時又ランパルキでこ
くる。やはり(けこう)の今日の通りであった。(竹内記)

12月26日 〇TS — 金剛岳 — 東沢岳 手前のコル
(7:00) (8:30) (15:40)

今日はおならず、東沢東越まで行こうと7:00出発 すばらしい天気である。
樹林帯のラッセルをかけるとうちはりラスト約30分半岳山頂 すばらしい
なみだ。剣スリへ向う。岩は良かつたが最後の急斜面で二す。アツアツ
サイレン60mを降りる。至る可能地があると頭張るが皆バテバテ結局
東沢岳手前のコルで泊る。剣スリの数多い岩峰はまぶる夏道通りに西側
を巻くことになった。フィッツは不要であった。(山田記)

12月27日 〇 — 〇 TS — 燕岳 — 中房
(6:45) (14:00) (16:00)

早くも今日中に中房まで下ろすように出発する。天気は良く4,5年生も加
わってカラマツでピッケルは上る。1ピッケルで東沢東越に付き400mの
登りに入る。夏道通りにラッセルして3ピッケルでほぼ主稜線まで出る。
燕岳までは岩峰が多く意外に暗闇に入らなかつたが、7時に燕岳につく。今合宿
最後のピークである。下山道で中房まで下り、中房まで下り下る。
中房ではたき火をしてぬる湯を飲み下界を渡りて眠りにつく。
(中房と(下界)は二部下界の(下界)は(下界)社) (中山高記)

12月27日 〇 — 〇

雪が少なくて中房までタクシーか上がってきている。30分程歩いただけで
タクシー1車は済、あのまま本館まで行く事になった。ラッキー
(中山高記)

はんせい

[記録係]

記録係の任務をまるごと果たしてはいなかった。

毎日の記録はその日のうちにノートに記入すべきである。

[装備係]

特に大きな忘れ物はなかった。ただもう少し細かい装備の量について、検討しておくべきであった。(ガソリン・クローソク) そうですね、もう少し軽量化が回れたであろう。

トランシーバーはもう山へもっていく必要はないのだろうか。

火器の充実も回りたい。

[食糧係]

今までの冬山合宿とは異なり、登攀を絡み入れた山行であったので、夕食はすべて米とペミカン、行動食はいつでも食べられるもの、いつもより飲み物を多くなど、Essen 立案の段階で苦労したが、そのために実際の山行中、毎人と分りまものを食べた様である。

今回の様な山行では、うまいものを食うには限度があり、大事なことは、ほんのちよとした心くばりが一番であると思われる。

[吉田]

の感想

冬山への計画が決まった時から、とてもプレッシャーがかかりました。準備のトレーニングもさしてや、ていませんでした。でも長野であったユマーリングの練習は役に立ちました。

出発の3日前だったか、家が火事になったと手紙がきました。大したことは書いてなかったのですが、電話をしてみると、至急帰ってこいとのことでした。そんなこんなで、冬山のことも気にとまらなくなっていたのですが、用が、そろそろなくなったし、やはり参加しなくてはと思い入山しました。でも終わってみて、参加してよかったと思っています。

○こまかいこと

- ・アイゼンがいかれてしまった。
- ・手袋の管理がずさんで、凍らせてしまった。
- ・ユマーリングの際使う金属ブラシの代わりに、用もないタワシを持っていき、ユマーリングの氷を素手で溶かしている、凍傷になる危険があった。
- ・体力的に常に余裕がなく、困難なところやなにかあった場合不安だ。
- ・夜寝るとき、ダンマットをシュラフの下に入れなかったため、シュラフがびしょびしょになってしまった。

〔吉野〕

登攀後ラッセルして幕岩尾根を登るときはある程度TOPともう一人くらいが先行し、fixしておくべきではないだろうか。一年生のめんどうをみるということにあまりにも気をとられすぎ、ラッセルなどが進まはかった。

一年の吉田君はトツアを歩くとき、もっと前方の様子に目を配り、道をまちがえたり、よけいびどいといったところを歩かぬようにしてもらいたい。ただまんぜんと足もとを見て歩かぬようにしてもらいたい。

来年もこういう登攀をとり入れてみたいというのが多くの反省はらびに感想です。

〔山田〕

無事に下山してまいりました。昨今の剣とは異な、た重圧があり、それだけに無事に下山出来た時は、本当にうれしか、たです。会として初めての冬期登攀縦走であり九月頃からみんなでトレーニングをし、みんなガンバって成功させた山行でした。途中色々あったけど、又一つ大きくな、た気がします。

ヤレバ、出来ルンタ!

[竹之内]

今年の冬山合宿は岩壁登攀から縦走へという形態の山行であった。もちろん私にとっては冬期は初めてである。事前にゼミ等を通して、研究していたものの、細部に致るとまごついた点があった。予想はしていたものの、いざテラスの上の巨岩でユマールがすべり出したときにはあせった。特製の鉄タワシで湿雪を払い落とし、ユマールの溝から雪をほじくり出すことによりどうにかユマールも復活した。まったく冷汗ものであった。しかしほんといつても命をザイルに託しているだけにザイルのいたみは相当のアレシヤであった。吉岡君が途中入山ということにはなったが、その後の運びがうまくはなされてよかった。吉岡君の確保も大テラスまでであり、自力でユマールリングできたのは評価できる。

しかしこの登攀部で天候に恵まれたことはこの上もなく幸運であったといゆざるを得ない。風も入らなくて、冬山初めての吉岡君も凍傷の危険はだいぶ緩和されていたと思う。

ハンクの部分では腕力はもちろん腹筋力の足りなさも痛感した。結局荷を負っては上がれず、後で引き上げた。またユマールリングの途中アイゼンのぬじがはずれるほど事前の点検を怠ったことは大いに反省すべき点である。大事故を招くおそれがあるので留意したい。ビバークに関してはスペースがかなりあり、思ったほどにはしんどくなく、よく眠れた。

下級生をリードする立場にありながら、二年生の先走りをおさえずにはなかったのは自分の弱さを感じる。

無事下山できて、何よりもよかった。

(山本) あいふたすう

部員名簿

山本 章 (教-社) 5-A

長野市 旭町31 杉棟屋

佐賀県 佐賀市 末広22-13

09522-3-7480

甲嶋 岳志 (教-教) 4-A

箱清水2200

長野県 豊後町1147

02637-3-4945

瀬戸 由則 (I-指) 4-0

若里荒木214-3

奈良県 八原市 川西町82川西団地39-2 07442-77027

竹内 秀実 (I-指) 3-0

若里500石里家

0262-28-6830

~~0262-28-7862~~

東京都 江戸市 奥平山2-8-8

0425-33-0746

吉野 敏昭 (I-指) 2-B

若里荒木214-3

山形県 米沢市 城北 1-7-3

0238-23-9588

山田 弘二 (教-化) 2-A

上田市 階々2-3-9 (青木方)

0268-22-6373

新潟県 新発田市 大車町1-7 2 02542-2-3216

吉岡 道泰 (I-指) A L

松本市 横田121 木村荘

0263-32-4872

東京都 目黒区 大橋2-16-24

昭和54年1月27日発行

山岳出版 定価200円

編集人 志野敏雄 / 発行人 徳州大山岳部
監版所 徳大教図書館印刷所